



昨年12月の末、菜園作業が終わり西に沈む夕日を眺めていました。ここからは富士山を初め箱根の山々が遠望できます。曇り空の夕日でしたが、目を凝らすと写真のように箱根の山々から噴煙と思しき煙が立ち上っています。夕日を受け、はっきりと見えました



中央が箱根火山の最高峰、神山（1437m）、右に冠ヶ岳（1409m）そして 台ヶ岳（1044m）と続きます。

見てください、高く昇る噴煙らしき影が見えます。場所は大涌谷辺りと推測されます。

黒い「温泉卵」で知られる大涌谷は今でも水蒸気が吹きのかげり、温泉の源でもあり、火山そのものです。



神山から左に下り、台形のように見える山は二子山が重なって一つの山に見えています。

山頂付近から噴煙らしき影が見えます。

二子山の右下、麓のくぼみに国道1号線が芦ノ湖に向かいます。このルート、箱根駅伝5区山登りコースで、今年、青山学院大学の神野選手が快走しました。

大涌谷と二子山の同時噴火か！！

家に帰りニュースを待ちましたが、何の報道もありませんでした。

この写真のように拡大してみると、噴煙と思しきは、二子山のはるか手前、町中からです。風も弱く煙は真っ直ぐにのぼり、上空で風になびいているではありませんか。

大涌谷かと思った噴煙も同様、はるか手前の町の煙です。 驚かされた一件でした。

(参考) ■ 箱根火山の形成について、カルデラを持つ典型的な三重式の火山と云われていました。概略すると、『この地に円錐形の成層火山（富士山形）が形成され、爆発的な大噴火により陥没し、箱根火山を大きく取り囲むカルデラ（古期外輪山）が作られた。再び活発になった火山活動は再度噴火・陥没を起こし、カルデラを作り（新期カルデラ）屏風山、浅間山等が作られた。その後神山などの中央火口丘が形成される。最後に神山の北西斜面が崩壊し、仙石原周辺を埋めて芦ノ湖が形成された』この説は地質・岩石学の権威であった故久野教授の理論で長らくこの説が一般的となっていました。

■ 近年の温泉ボーリングの地質サンプルから、久野理論ではない新しい理論が考察されています。それは『巨大爆発による巨大カルデラが作られたのではなく、あまり大きくない噴火と陥没によるカルデラが沢山連なり、内側が浸食されて現在のような大きな輪郭が形成された』という考えです。『中央火口丘は小規模な噴火により、神山、駒ヶ岳、二子山等が作られた。約三千年前に冠ヶ岳が作られる時に仙石原方面に崩壊が起こり、早川をせき止め、芦ノ湖が形成された』とする考え方です。

詳細は、箱根の入生田にある「神奈川県立生命の星・地球博物館」そしてその奥にある「神奈川県温泉地学研究所」で知ることができます。

是非、お出かけください。